週刊粧業

発行所　週刊粧業®
東京都台東区上野1-18-9
(黒門平成ビル3・4F)〒110-0005
電話（03）3836-2601
FAX（03）3836-2602

週刊粧業ホームページアドレス
http://www.syogyo.jp
E-メールアドレス
letter@syogyo.jp

©週刊粧業 2016

熊本地震で業務停止など相次ぐ
義援金や物資支援に広がりも

営業停止中の再春館製薬所は21日、社員らが集まって復旧へ動き出した（写真＝同社のフェイスブックから）

熊本・大分両県を中心に続く地震の影響を受け、現地に拠点を構える化粧品メーカー各社も操業停止や発送業務の休止などに見舞われている。一方、支援する側の動きも広がっており、各社が物資支援や義援金の拠出を表明している。21日現在の主な動きをまとめた。

益城町の再春館製薬所 営業停止で再開目途立たず

最大震度7を記録した熊本県益城町に本社と工場を置く再春館製薬所は、生産ラインの一部が破損したなどことから操業を休止。現在も全商品においてフリーダイヤルの営業や商品の発送業務を停止している。また、阪急うめだ本店と博多阪急では営業を続けているが、商品在庫を置いていない状況だという。

再開の目途は立っておらず、まずは被害状況の確認、そしてスタッフや家族のケアを優先したうえで、準備が整い次第再開したいとしている。

一方で、敷地内にある約150台分の駐車場を住民の避難場所として開放しており、飲料水やおにぎりなどの提供も行っているという。

同社のフェイスブック上には、顧客からの応援や激励の言葉が溢れている。「愛用の化粧品です。いつまでもゆっくりお待ちします」「定期購買しているので本当に待ち遠しい限りですが、早く復旧が進むよう祈っています」などとメッセージが寄せられ、それに対して同社スタッフが「涙が出るようなコメントをありがとうございます」「1日でも早く、お手元に商品をお届けできるように頑張ります」などと返答している。

同社は21日、社員と関係者400人ほどが集まり、復旧に向けて少しずつでも動き出そうと結束を深めたという。（写真参照）

熊本市に本社を構えるネイチャー生活倶楽部は、電話とFAX、ホームページでの申し込みは通常通り受けているが、運送会社の物流センターが被害を受けているため商品を発送できない状態が続いているという。

また、「マナラ」ブランドを展開しているランクアップは、熊本市にコールセンターを設置している。地震発生後は通常営業ができておらず、営業を休止しているという。

会員制サロンを全国に展開しているシーボンは、熊本市内にある2店が顧客や従業員の安全確保の観点から営業を見合わせている。再開の時期は未定となっている。

シャンプーや紙おむつ、サプリ 各社が続々と支援表明

一方、支援する企業の動きも広がっている。

資生堂は、緊急支援として水のいらないシャンプー（3600個）とウェットタイプのボディシート（1万個）を届けることを決め、22日に福岡県内にある行政指定の集積所に着荷予定という。

花王は、「メリーズ」などの紙おむつや生理用ナプキン、ハンドソープなどの物資支援を表明し、同時に日本赤十字社を通じて1000万円を寄付した。

紙おむつや生理用品は、P&Gやユニ・チャームも緊急支援に乗り出している。P&Gは計10万枚超を提供し、ユニ・チャームは物資支援とともに、社員参加の義援金制度から500万円を寄付する。

日用品系では、ライオンが義援金に加えて消毒液や除菌シート、ハミガキなど約2600点を17日に益城町役場に届けた。

サンスターもハブラシなど2万2000本超を届けている。

小林製薬は、義援金1000万円とともにお茶やカイロなどを、マンダムも「ギャツビー」のボディペーパー（30枚入り）約5万個を18日に出荷した。

コーセーやポーラ・オルビスホールディングスも、被災自治体などと連携してシャンプーや飲料などを順次提供していく。

通販系ではファンケルが、サプリメントや加工食品など約4万7000点を20日から順次発送し、追加で約8400点のタオルも送る。

また、従業員が積み立てている基金から100万円を寄付。さらに、従業員による募金活動とグループからの義援金の合計額に池森賢二会長が同額をマッチングし、寄付することも明らかにしている。加えて4月末からは、顧客から買い物ポイントを寄付金として受け付ける活動も開始する。

ネットワークビジネスのニュースキンジャパンも、会員らの寄付金による基金から500万円を拠出し、避難所に物資を届ける団体に大型トラックを寄贈するなどした。

「通販生活」を発行するカタログハウスは、「エコノミークラス症候群」対策で脚をマッサージする機械などを寄付する。

化粧小物特集……（8）～（9）
消臭・芳香剤特集……（10）

巷間美風

少子高齢化問題の枝葉として「保育園」を巡る問題が深刻化・肥大化している。

私個人は無縁の話題であるが、同居する母が雇われとはいえ、認定こども園の園長をしているため、我家では話題になることが多い。

衆知のとおり発端は一つのブログだった。あまりに衝撃的なタイトルではじまるメッセージ性の強いそれは、日本中を震撼させただけでなく、2万8000人もの共鳴者を集った。翻って、問題の根底は、アベノミクスの新第三の矢の一本として「子育て支援」を掲げたことにある。その重責からか、政府は新たに支援策の検討を開始した。具体的には「准保育士」なる新資格を設ける、介護福祉士との資格を一本化するなどだ。しかしながら、そうした急務的かつ救済的な措置対応が通用するほど底浅い問題ではもはやなくなっているのではないか。仮に後者が採用されるとしよう。可視化された問題として、介護福祉士の合格率が約6割に対し、保育士のそれは2割に満たないという試験難易度の差がある。その差は、合格した対象に対する情熱や信念、さらには誇りの差となって表出する。それを学生時分に経験し、志望校に悉く落ちたの私だ。（菅）